

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 新潟大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1) 構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なものとなっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が十分に担保されている。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 新潟大学

(検討会の所見)

- 大学および地域特性を生かした提案になっている。計画通り展開することを期待したい。
- 大学の特色、強みを生かした適切な提案であり、実効性、実現性が高く、成果が期待できる。
- 新潟大学の取組は、これまで様々な提案を見ているが、年々、中身が充実してきている。主にヘルスケアへの焦点づけ、地域の特性を生かした産業への目配せなどだが、今回はそれを社会的インパクトという切り口で進めることをより明確にしていると思われる。
- 今までの取組を一步、進化させた、産学連携と地域協働を加速させる計画であると評価できる。インパクト・マネージャーやクリエイティブ・マネージャーを配する取組は高い実効性が期待できるのではないか。総合大学として、教育面での改革にも取り組んでおり、評価できる。
- 地域連携による社会協創が新潟大学の特徴の一つだと期待している。しかし、提案にもある通りこれまでの地域連携は地域の特徴、新潟大学の特徴ある研究を結び付けたプロジェクトの大玉化には至っていない。大玉化するためにも、総合大学の特徴を生かし、テーマを立体的に捉えて取り組んで貰いたい。
- 地域連携プラットフォームはそれぞれの強みをしっかりとつかみ、様々な点で工夫をすることにより発展性は見込める。
- 意欲的な取組であり、地域創生が期待される。一方、知財化が弱いと感じられる。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 長岡技術科学大学
豊橋技術科学大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 長岡技術科学大学
豊橋技術科学大学

(検討会の所見)

- 第3期中期目標期間中における両技科大・高専の連携強化を基盤に、新たに DX の側面を活用してさらなる連携強化と社会への成果の還元を図ろうとする意欲的な取組であると評価できる。NFT 発行による収益事業化や、アライアンス法人の設立は新たな挑戦であるが、事業を取り巻く規制等の環境がまだ完全に整備されていない中、リスク評価等も併せて慎重に取り組みつつ、成果を挙げていくことを期待する。
- 「テック・メタバース」という野心的で興味を惹く構想である。単にバズワードに乗っかっているだけなのではないかと懸念もあったが、限界や弱点についても意識していること、リアルとの連携も視野に入れていることなど、期待が膨らんだ。取組を通し、リアルとバーチャルの分担をどうすべきか、バーチャルでやってはいけないことなど色々見えてくると思うので、是非対象を絞ってスモールスタートで始めて頂きたい。また、大学の主権を大きく失わない範囲で DAO についても取り組んで頂きたい。この取組が、大学の経営改革に繋がることを祈念している。審査外のことであるが、メタバース時代のデジタル・シチズンシップ教育についても検討して頂けると有難い。
- 大変意欲的な提案であるが、事業目的である「経営改革」への波及をより検討すべきではないか。
- 新しい技術などを導入し、大学の改革を目指しており期待できる。しかし、両大学の関係をアライアンス法人により連携する取組であるが、経営にどのように効果があるか不安が残る。
- テック・メタバースの実用化には大いに期待が持てる。ただし、アウトカムの項目(各種マネジメント)が多いので、進捗管理をする人材をしっかりとアサインしておく必要を感じる。

次頁あり

○ 研究と教育の DX の発展形として、大学間連携、大学と外部ステークホルダーとの連携をテック系コミュニティとしてのメタバースに構築しようとする試みは大変興味深い。両大学の教育と研究の連携というレベルでは設定している目標は納得できるが、地域イノベーションやマネタライズのところはまだ煮詰まっていないと思う。またメタバースという新しい空間を考える割には、アライアンス法人の役割が古いシステムで語られているのが気になる。その空間はここで書かれている以上のステークホルダーを巻き込む可能性があるのではないか。

○ テック・メタバースで教育研究システム改革を先導する提案は斬新ではあるが、2大学が連携することでどんな相乗効果があるかの企画や分析が不十分で、経営改革に資するかどうか不明である。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 金沢大学
富山大学
福井大学
北陸先端科学技術大学院大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が十分に担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 金沢大学
富山大学
福井大学
北陸先端科学技術大学院大学

(検討会の所見)

- 産業界を媒介とした大学間連携という新しいモデルとして期待したい。
- 北陸4大学の連携の提案としては納得感がある。各大学の強みある拠点を核にしてイノベーションエコシステムを作っていくという視点はよくまとめられており、目標も説得的。課題は、このフレームワークがサステイナブルかどうか、ヘッドクォーターとして維持していくための金沢大学の役割である。
- 第3期中期目標期間から取り組んできた「未来共創フォーラム」を発展させる計画で、新鮮味に欠けるが、新たな取組も計画されている。KPI としては、アウトカム指標を含め、多数設定されており、改革構想の実効性の向上につながるものと期待できる。
- 広域の地域連携プラットフォームが実効性のあるものに進化させることが出来るか否かがカギとなる。高い KPI を掲げているので期待は大きいですが、大学側からみた定量的な面だけでなく、産業サイドから見た定性的な面(企業の取組がどのように変わったか)などにも着目して進めることが大切だと思う。言い換えれば、経済界がどこまで本腰を入れて取り組むようになるかがポイントではないか。
- 提案に「地域課題克服と成長力向上と、申請大学の教育力・研究力の強化との両立」とあるが、本補助金の活用としては地域の特性、地場企業や地場産業の特徴を十分に考慮して「地域課題克服と成長力向上」に重点を置くべきではないか。
- 4大学の役割も明確になっており、リーダーシップをとる金沢大学もしっかりとしたスタンスを持ち、将来性を高く感じる。しかし、支援期間終了後(令和7年度以降)の効果がどの程度見込めるかが少し気になる。目標数字に到達可能か検証が必要である。
- 意欲的な取組であるが、このフォーラムの継続性が問題であり、継続するためのシステムの構築が必要である。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 山梨大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 山梨大学

(検討会の所見)

- 第3期中期目標期間に構築した「大学アライアンスやまなし」を基盤に、大学院教育と若手の研究力強化を目指す意欲的な計画で高く評価できる。KPIも、大学における研究・教育活動の最終的なアウトカムとしての社会貢献が強く意識された形となっており、博士取得後の就職率も最終的には令和7年度に100%が目標に掲げられているほか、補助期間終了後の自立性確保のための方策も検討されており、評価できる。
- 第3期中期目標期間の取組は、地域に密着した特徴的な取組であった。今回、それを更に大学院に拡張していくという取組であり期待したい。提案のように若手教員の研究環境の改善や、卒業生の社会での活躍強化に向けた実学スキル向上や、地域企業と密着した大学発ベンチャーなど、是非地域の特徴を踏まえた地域に根差した取組を、地域連携プラットフォームを最大限に活用して着実に進めてもらいたい。
- 大学改革を進めてこられた山梨大学は、このあたりで別の基軸を出していく時期に来ていると思う。地域大学としての大学から、研究への志向においては、地域大学ならではの基軸が必要なのではないか。この種の資金は多くが人件費に使われることが多いが、その人材の優位性についてもデータを示して説明する必要があるのではないか。
- わずか数%の博士課程の学生を中心としたものよりは、主として修士課程学生対象としたプログラム改革にするべきではないだろうか。スタートアップ支援などは他大学がこれまで行ってきたものとあまり変わらないように思う。地域の特長を生かした提案を期待したい。
- 意欲的な取組であり、今後の発展が期待される。一方、取組の1つである、研究成果をもとに社会貢献し、外部資金の増加につなげる循環システムの構築と運用について、計画が曖昧であり、事業の継続性に問題が残る。

次頁あり

- 若手人材の教育としているが、具体的な育成後の人物像がうすく感じる。若手が魅力的に思える育成プログラムの浸透のさせ方に工夫が欲しい。
- 実学スキルを持つドクター育成を目指すことには賛同するが、より具体的な育成方策を検討すべきである。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 岡山大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、極めて効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 岡山大学

(検討会の所見)

- これまでの実績をベースにした優れた提案と考える。着実な実行を期待したい。
- 特色、強みのある研究課題、グループを伸ばす実効性のある取組の提案であることを評価する。
- 第3期中期目標期間の改革の成果で、学内のモチベーションが向上していることがよくわかる。アジャイル型とウォーターフォール型を組み合わせた、学部・研究科横断的なアプローチで、更なる成果が期待できる。KPI の設定も意欲的で適切である。
- 第3期中期目標期間の取組みの更なる深掘りに加え、従来のウォーターフォール型とアジャイル型を組み合わせたハイブリッド型で組織運営を行っていくというプログラムであり、改革の成果に期待したい。また、心理的安全性を高め、チャレンジを促したいとの提案もあり、組織風土の更なる改善についても期待したい。一方、アジャイルアプローチの場合、その過程で何が起こり、どのように変更したかを共有知識として蓄積していくことが、更なる施策の確実化、迅速化に繋がるので、共有知識化を図って頂きたい。
- IMaC に基礎を置く大学改革を知っているが、今回の知識創造マネジメントオフィスの創設はさらに屋上屋を架すような改革型提案に見えてしまう。より早く、より高く、より強く、という制度加速化の提案に止まっていないか。ウォーターフォール型、アジャイル型などの言葉が踊っているが、大学全体の中でどのような効果があるかがまだわからない。工学系への働きを進めているとすれば、それが外部資金の獲得などに数値として現れているはずで、そこがまだ見えないところである。
- 価値創造に向けての発展性を感じる。補助金は人件費を主流としており、アジャイル手法の継続的な采配が少し見づらい。
- 様々な改革により新しい大学を目指しているが、既存の組織にメスを入れておらず、本質的な改革が見えない。また、新しい人材の人件費の負担をどのように継続できるのか明確でなく、継続性が気になる。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 千葉大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 千葉大学

(検討会の所見)

- 研究、教育の両面で、課題を認識したうえで取り組もうとしている、バランスのとれた経営改革計画であると評価できる。KPIの設定も意欲的である。
- 今後期待される分野であるがゆえに上手に産業界の情報を取り、アウトカムの見えるプログラムとなることを期待する。
- 千葉大学の持つポテンシャルを大いに発揮する方向に大学を発展させていただきたい。そのためには本構想において直接的に関わらない学部、学科のあり方をもう少し踏み込んで検討すべきではないか。
- 大学経営の改革としてはまだ緒についたばかりという印象を持つ。地域の中核研究大学としての国際展開が提案だけからはまだ戦略的に描けていない印象を持つ。国際卓越の研究拠点を複数展開するための基盤を構成するための資金と考えているようにも見える。より具体的な国際戦略を記すべきではないか。もう一点は独自性の問題である。DX、well-being、文理融合、ジェンダーなど、国の様々な会議で議論されている視点であるが、より個別性・独自性の視点がビジョンとして必要ではないか。IRについてもまだ緒についたところという印象を持つ。
- データ活用の重要性については論を俟たないのだが、教育の柱として、このタイミングでデータサイエンスをとりあげるというのはトップ大学としては物足りなく感じる。データ分析の教育においては、様々な種類のデータが必要になってくるので、データを持っている主体(企業等)との連携が不可欠である。また、研究についても、強みを持った研究分野にデータ活用を応用するということではなく、データサイエンスを道具と捉え、データサイエンスの活用によって競争力が飛躍的に高まる研究分野に集中すべきだと思う。博士のキャリアパスについては、アカデミアでの活躍に加え、社会の幅広い分野で活躍できる人材の養成にも期待したい。いずれも必要性は理解するが、千葉大学にとって十分な構想なのか疑問が残る。

次頁あり

- DX による大学の様々な改革を目指しており、期待されるが、それは単にインフラ整備であり、世界のトップクラスになる戦略が不明確である。
- 育成してきた強みをさらに強化する順当な提案ではあるが、それらの国際拠点形成に向けた取組、戦略に不十分さを感じる。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 東京農工大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1) 構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なものとなっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が十分に担保されている。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 東京農工大学

(検討会の所見)

- 極めて高い学長のリーダーシップのもと経営改革が進みつつあり、さらに意欲的な提案となっている。計画が実行されることを期待したい。
- 可能性を感じさせる意欲的な取組である。
- 将来は、国際卓越研究大学と同レベルのガバナンス、事業成長を実現しようとしている野心的プログラム。是非、長期にわたって取組を継続できるような仕組みを内包して頂きたい。
- 国際卓越研究大学へと発展していく基盤としての制度設計にはこの程度の資金では難しいだろう。その改革に向けた構造改革のレベル感がまだよくわからない。今後の展開としての5つの拠点は目の付け所として素晴らしいし、拠点を提案するところまでは可能だが、それをサステイナブルにするには経営環境を違うレベルに引き上げる必要があるだろう。
- 学長の極めて強いリーダーシップのもと、野心的な経営改革が進んでいると評価できる。他方、この改革の流れに学内が果たしてどれほどついてこられているのか、やや不安も残る。大学発ベンチャーや大学ファンドについては、国内外の金融環境の変化の影響も受けざるを得なくなることから、リスク管理体制等をしっかりと整備したうえで、様々な意見を傾聴しつつ進めることが望ましいのではないか。
- 全体としては、大きな構想であり評価できる。しかし、トップマネジメントが強すぎ、この構想を推進していくための執行部の顔が見えてこないのが気になる。
- 自学の特色を十分に分析した上での、戦略性に富んだ、挑戦的な取組であると評価できるが、予測通りにKPIが達成できるかは不安が残る。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 金沢大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 金沢大学

(検討会の所見)

- 期待の持てる提案であり、今後の発展が期待される。
- これまでの改革実績の積み重ねを土台に、強みのナノ・マテリアル分野にとどまらず、他の自然科学分野や、人文・社会科学分野をも巻き込んで改革を進める意欲的な構想と評価できる。教育面でも大学院の改革の方策が多く盛り込まれており、研究面や社会貢献面での成果にもつながると考えられ、期待される。
- 第3期中期目標期間の成果を踏まえ、新たに総合大学としての強みを生かし総合知をキーワードに改革を進める構想となっている。挑戦的な構想であるが、学長の強いリーダーシップで構想が実現されることを期待している。現時点では、総合知に対するアプローチは分野限定でトップダウン型であるが、学内で自然発生的にボトムアップ型の総合知に対するアプローチが生まれ、更に広範な総合知となることを期待している。
- 素晴らしい提案であるが、実現可能性に関しては不安も残る。学長のリーダーシップのもとぜひ計画を達成してほしい。
- 今回の提案は、これまでの金沢大学の歩みと全く異なる方向だと思う。このチャレンジングな提案の実行可能性についての懸念もあるため、ステップバイステップで進めるようなシナリオも必要ではないか。
- ベンチャー創出に資するファンドの設立などチャレンジングな内容である。ファンドレイザーの活用がポイントとなる感じを受ける。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 神戸大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 神戸大学

(検討会の所見)

- 神戸大学の強み、神戸地域の強みを十分に生かした大学経営改革となることを期待したい。
- 神戸の医療産業都市に神戸大学の強みである、バイオ、医療への特化はこの大学の特色を更に強化することになるだろうし、CFO や CCO のような体制を強化するという申請も神戸大学の今後プラスになるだろう。ただこの既存の方向性は、どこかで成長の限界点に達するような気がする。神戸大学は、どちらかといえば地域に閉じこもる傾向があると感じているので、次世代のフラッグシップという見通しを持つのであれば、他大学との連携も含めたオープン戦略が必要ではないか。
- 第3期中期目標期間に引き続き、事業成長と異分野協創による知、人材、価値の創出を更に深化させようとする構想であり、期待している。しかし、得意分野のバイオものづくりや医工系と比較すると、カーボンニュートラルや Well-Being といった時機を得たテーマについては、具体性に乏しく、その実現性には懸念がある。
- 先進的な取組である。しかし、その実効性が不明であり、共創研究教育のグローバル拠点とあるが、グローバル化が見えない。
- 提案は標準的ではあるが、デジタルバイオ&ライフサイエンス課題は突出しているとしても、次に掲げられたカーボンニュートラル、Well-being 関連の研究課題のフラッグシップ研究分野に育成する取組についての具体的な計画が不十分である。全学的な改革につながる計画とはみえない。
- 経営改革のための様々な構想が盛り込まれており、過去の計画よりもブラッシュアップされているが、総花的な感もあるほか、学内の研究・教育の現場からの改革や成果の向上に向けての原動力や推進力の高まりが感じられない。経営方針の意思決定上、現場や若手教員等の意見を十分に吸い上げる仕組みができているのか、執行部判断での経営改革構想になってしまっているのではないかという点において懸念がある。社会からの高い評価を得ている各学部の資源を十分に活用しきれていないように見受けられるのはもったいない。

次頁あり

- 更にインセンティブの内容を明確にし、やる気を引き出し成果につなげてほしい。知財だけに頼る伸び率は厳しいのではないか。
- 設備備品費に計上されている e-Learnig 設備の整備について、「“トップレベルの教育研究”の展開を目指す国立大学法人」としての取組において整備すべき設備なのか疑問が残る。整備・活用を行うに当たっては、本事業の趣旨に合致する形で活用を行うこと。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 広島大学 学長 殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

今後、KPI の達成状況や下記所見の対応状況等を踏まえて、事業期間を通じた評価を実施することとしています。

記

(1)構想の卓越性

○優れた経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが大いに期待される。

(2)構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なものとなっている。

(3)取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4)取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5)成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6)本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(別紙)

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人 広島大学

(検討会の所見)

- 第3期中期目標期間で達成した実績を基盤に、これまでの取組の延長線上の部分もあるが、海外の連携先を従前からのアリゾナ州立大学以外に東南アジア各国にも拡げる計画であるほか、国内での Town & Gown 構想も、瀬戸内海経済圏の他大学や国内の大手民間企業を巻き込みつつ展開することが計画されており、意欲的で成果が期待できるものと評価できる。
- これまで取り組んできた Town & Gown 構想を更に強化するとともに、県内、中四国、海外へと展開していくという優れた構想と考えられる。
- 国内だけにとどまらず海外創生構想の発展には、大いに期待をしたい。
- 広島大学の特徴がよく現れた計画と評価する。KPI はもう少し高めの設定を期待したい。
- Town & Gown 構想から世界への広島大学という視点は自然な流れだと思うが、本来広島大学が果たすべき瀬戸内海経済圏での構想がまだ連携というレベルに留まっていて、大きなインパクトをもたらすようなシナリオが見えない。
- 広島大学が地方創生に関与することを、Town & Gown 構想と名付けているが、より分かりやすく、説得力のある説明が必要である。また、状況の異なる地域に展開するとの計画であるが、戦略が明確でない。また、この事業を将来的に継続するための、外部資金獲得の方針が明確でない。
- 内容はトップレベルを狙うよりも、地方創生に資するものとなっており、計画性もまだ十分とは言えない。